

第40回 全国公立学校教頭会中央研修大会 報告

- 1 期 日 平成28年2月10日(水)
- 2 会 場 東京 メルパルクホール
- 3 出席者 ・役員、事務局 42名
・都道府県会員
- | | | | |
|-----------|------|----------|-------|
| 北海道ブロック | 46名 | 東北ブロック | 83名 |
| 関東甲信越ブロック | 632名 | 東海北陸ブロック | 170名 |
| 近畿ブロック | 117名 | 中国ブロック | 46名 |
| 四国ブロック | 38名 | 九州ブロック | 78名 |
| | | (合計) | 1252名 |

4 内 容

(0) 受 付 9:00 ~ 10:00

(1) 開会行事 10:00 ~ 10:15

- 司会・進行 研究副部長 太田 康治
- ①開会のことば 副 会 長 大谷 明
- ②国歌斉唱
- ③会長あいさつ 会 長 吉田 一義
- ④来賓祝辞
- 全国連合小学校長会 対 策 部 長 千木良 康志 氏
- ⑤来賓紹介 副 会 長 脇田 禎彦
- 全日本中学校長会 会 長 伊藤 俊典 氏
- 全国連合小学校長会 対 策 部 長 千木良 康志 氏
- 全国へき地教育研究連盟 事 務 局 長 小野寺 時男 氏

(2) 趣旨説明 10:15 ~ 10:20

研究部長 青田 一彦

(3) 基調講演 10:20 ~ 11:30

- 講師紹介 副 会 長 池端 庄一郎
- 演 題「子どもの未来を拓く学校教育と指導法から学び方へ」
～ キャリア教育とアクティブラーニング ～
- 講 師 産業能率大学経営学部 教 授 鈴木 建生 氏

※ 高卒就職から小学校・中学校でキャリア教育を考えること、次期学習指導要領とアクティブラーニングを取り巻く状況を共有することをテーマに、ペアワークを取り入れながら分かりやすく解説していただきました。

※ 普通科高卒者で早期離職する生徒は、自己否定的であきらめ感が強い場合が多いようです。そのような生徒とは信頼関係を築き、意欲を引き出し、自己肯定感を育てることが大切です。そのためには肯定的傾聴・承認・質問という信頼関係作りの対話のサイクルを取り入れなければなりません。また、小学校・中学校から日常的なキャリア教育の場としての授業に、協働的な学習活動を取り入れることによって、子どもたちは課題を乗り越えて生き抜く力を身につけることができますようになります。

次期学習指導要領では、言語活動の充実や思考力・判断力・表現力の育成をうたっていますが、一方的な講義形式の授業から、課題の発見と解決に向けての主体的・協働的な学習（アクティブラーニング）に切り替えていく必要があります。

○お礼のことは 副 会 長 茂木 里仁

(4) 昼食・休憩 11:30 ~ 12:40

(5) シンポジウム 12:40 ~ 14:55

○司会・進行 研究部員 白井 栄作

○テーマ

「実効性の高い教育課程編成・教育実践のための副校長・教頭の役割」

視点1 豊かな人間性と創造性をはぐくむ学校教育

2 21世紀型学力を踏まえた教育課程の編成

3 教育活動の質を高めるための協力体制と風土づくり

○シンポジスト

文部科学省初等中等教育局 視学官 太田 光春 氏

※ ご専門の新学習指導要領に基づいた小学校外国語活動、小中連携の英語教育を指導できる教師の育成を中心に、21世紀型学力を踏まえた教育課程の編成について、ご提言をいただきました。

※ 学校の責務は、子どもたちが生涯にわたり自律した学習ができるようにすることであり、主体的に学習する態度を養うことにあります。そのためには教師は子どもたちの心に火をつける役割を担わなければなりません。

子どもたちが、将来自分の持ち味を生かして社会貢献すること、求められているところで最大限の努力をして幸せになることが教育の目的です。21世紀型学力を踏まえた教育課程を編成し、ティーチングからラーニングへと言語活動の充実を図った授業に変えていくことが重要です。また、子どもたち一人一人の可能性を信じること、知識だけを計るペーパーテストの結果でレッテルをはらないこと、誰かと比較しないことが肝要です。子どもたちは同じスピードで学ぶ必要はありません。大切なことは、学び続けることです。

産業能率大学経営学部 教授 鈴木 建生 氏

※ 午前中の講演に続いて、今なぜアクティブラーニングなのかを社会の変化と子どもたちの幸福という視点から、ご提言をいただきました。

※ 30年後には現在ある職種の65%がなくなるといわれています。このように激変する社会で大切な能力は、活発な対話・思いやり・目標設定とその実現といわれています。30年後の社会に適応し子どもたちが幸福になるためには、単に知識の伝達にとどまらず探求や実践を重視したアクティブラーニングの視点を取り入れた授業を行わなければなりません。幸福の好循環ループ4つの因子である達成感・積極的思考・失敗を肯定する文化・自己信頼感を授業の中で体験を通して実感させるようにしていきたいものです。課題を発見し解決に向けて主体的・協働的に学ぶということの意味を、子どもたちの幸福という観点で考えなければなりません。新しい時代の価値観を支える教育課程を編成し、子どもたちのために実践してほしいと思います。

高知市教育委員会 教育委員 谷 智子 氏

※ 小学校6年・中学校6年・計12年間の校長経験をもとに、学校経営や教頭の職務について坂本龍馬の言動に触れながら、具体的にご提言をいただきました。

※ 幕末に活躍した土佐の坂本龍馬は進取・調和・改革を意識し、近代日本の幕開けに貢献した行動力のある人物でした。このような龍馬の心持ちは、教頭先生には大いに参考になると思います。次期学習指導要領について職員に知らせ、議論し、新たな教育課程を編成するという進取の気概を持つこと。教育ビジョンを共有し、みんなで共通実践し、教職員を育て、教職員をつなぐという調和を重視すること。学校経営の柱である授業研究を通して授業を改善することや学校を改革すること。これらに努力してほしいと思います。

教頭先生の仕事量は膨大です。校務分掌上にないものも含めて、全てに精通していなければ務まりません。学校の要として、教職員の話をよく聞き、笑顔とユーモアで、チーム学校を盛り上げてほしいと思います。

全国公立学校教頭会 副会長 脇田 禎彦 氏

※ 第10期の研究を推進していく副会長の立場から、全公教約3万人の会員の代表として、ご自身の経験をもとに子どもたちの学力向上について、具体的にご提言をいただきました。

※ 学校の使命は子どもたちの学力を向上させることにあります。これまで、生徒一人一人の学力向上をめざす学校、ICT機器を取り入れた先進的な授業を行う学校、問題解決能力育成に取り組む学校に勤務してきました。教科の枠を取り払ってみんなで教材研究をすること、生徒が確実に力をつけていると分かる授業をすること、生徒が自分の伸びを実感できる授業をすること、生徒同士が教え合う・支え合う授業をすることを目標に努力してきました。生徒が豊かな心を持ち、人間関係が良好になり、学校生活が楽しいと感じられるようになると学力が向上することや、話し合い学習やコミュニケーション活動を取り入れた授業をすると学力が向上することが分かってきました。そんな授業をする先生を支えるのが教頭の役割だと思います。

○お礼のことは 副会長 池端 庄一郎

(6) 閉会行事 14:55 ~ 15:00

①全国公立学校教頭会歌 「山・波・雲」斉唱

②閉会のことは 副会長 茂木 里仁